

春の歩こう会

『福井幕末偉人探訪』ご案内

パナソニック松愛会 北陸支部武生分会

支部役員 畑下 正和

幹事長 松山 隆

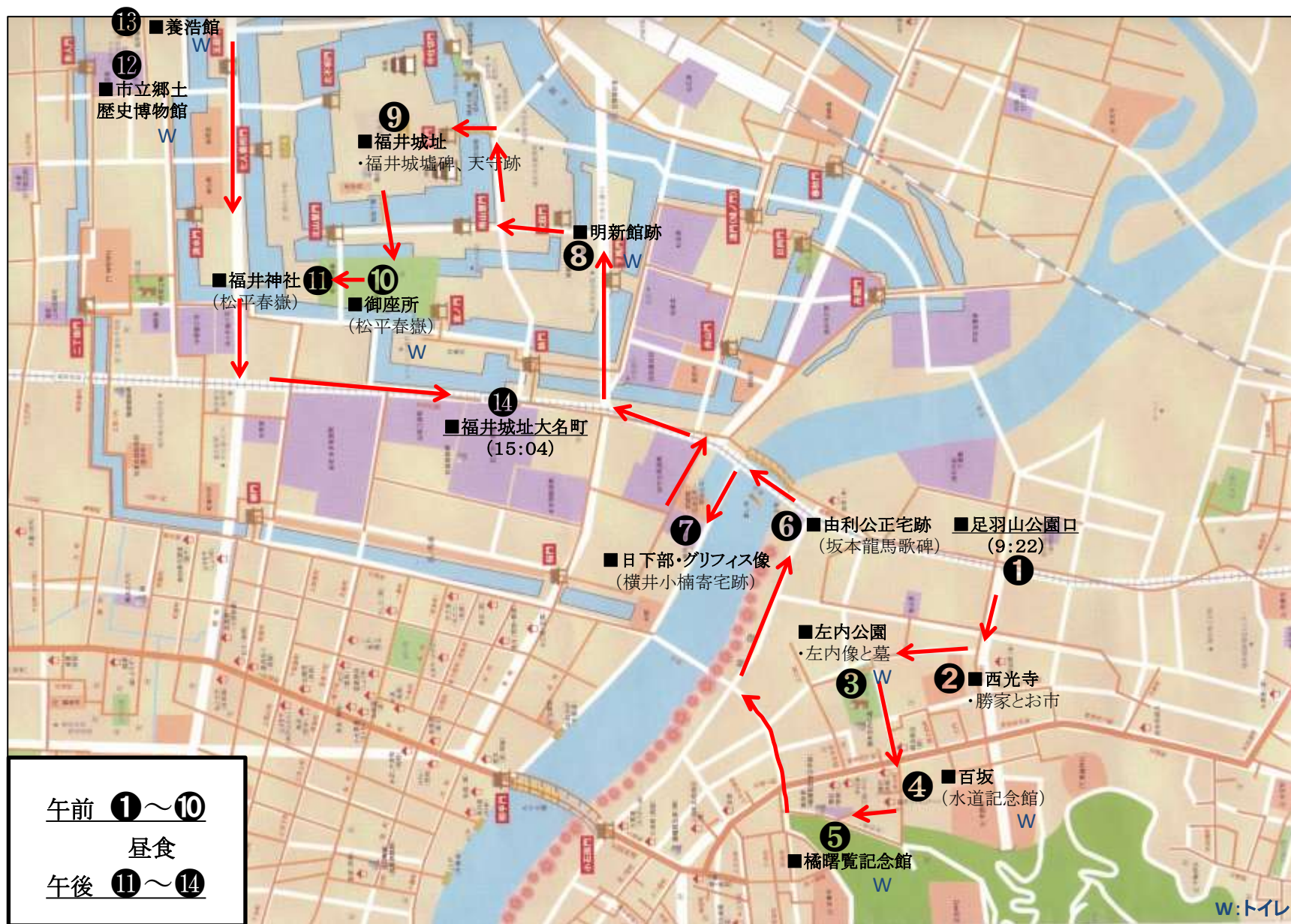
担当ブロック長 河本 松雄

会員の皆様方には、お元気にお過ごしのことと思います。

天候不順が続いておりましたが、春のよき季節に幕末の偉人に関する福井市内を散策したい
 と思い企画しました。 福井までは、福鉄でのんびりとしゃべりながら**足羽山公園口**まで行きます。
 基本は、午前中で解散ですが、歴史好きな方は、午後から市立歴史博物館、養浩館も
 見れますので、弁当持参ください。

《 記 》

- 1 日 時： 令和6年**4月20日（土）9時半～12時頃 *雨天決行***
- 2 集合場所/時間 **福鉄「足羽山公園口」集合 9:22着**←神明8:54(駐車15台) ←水落8:51(駐80台)
 時間 ←西鯖江8:47(駐13台) ←北府8:37(駐車59台) ←たけふ新8:35
ハピライン：武生7:40←王子保7:36←南条7:32又は武生8:10←南条8:04（快速）
- 3 準備物 雨天時の**雨具等・健康保険証**・・・各自用意願います
 お茶（ペットボトル）、補給食等は、準備しています。
- 4 午前コース (約4km) ガイド案内付きです
 《足羽山公園口⇒2.西光寺⇒3.左内公園⇒4.百坂⇒5.橘曙覧記念館⇒6.由利公正宅跡
 ⇒7.日下部・グリフィス像⇒8.明新館跡⇒9.福井城址⇒10.御座所（12時頃解散）
- 5 お昼 御座所（屋根付き周囲ガラス張り）にて、持参弁当食べる
- 6 希望者 午後コース 11.福井神社⇒12.市立郷土歴史博物館(ガイドあり) ⇒13.養浩館(14時半頃解散)
- 7 会 費 ガイド料等は、支部補助金で賄いますが、福鉄の交通費が必要となります。
- 8 福鉄交通費 越前市、鯖江市、福井市の65歳以上の方は、事前にプレミアム会員に登録すれば、500
 円で1日乗り放題のフリー乗車券があります。上記以外の方は、土日祝日の1日乗り放
 題の600円フリー乗車券があります。参加される方には、別途詳細を連絡します。
 ご家族参加可（事前連絡ください）
- 9 その他 収集プルタブの回収及び募金を行います
- 10 出欠確認 **4月10日（水）**までに各ブロック長に回答下さい。
- 11 ガイド資料 次頁



②西光寺 足羽山公園口より徒歩3分

西光寺は柴田勝家、お市の方の菩提寺。朝倉氏滅亡後、勝家が北庄(きたのしょう)に築城する際に吉田郡岡保次郎丸から現在の左内町に移転させたと言われています。境内には勝家、お市の方が眠る墓や、勝家の念持仏や刀、そのほか数々の遺品などが収納・展示されている柴田勝家公資料館があります。

勝家は「織田四天王」の筆頭と呼ばれていますが、同じく「織田四天王」に名前の挙がる丹羽長秀の墓所は西光寺から約800mの距離にあり、四天王のうち2大武将の墓所は徒歩で巡ることが出来ます。また滝川一益のものと伝わる墓は越前市の霊泉寺にあり、福井県内には四天王のうち3武将の墓があります。(福井県観光連盟) ※織田四天王:一般的には柴田勝家、丹羽長秀、滝川一益、明智光秀



③左内公園 足羽山公園口より徒歩2分

幕末の志士、橋本左内の墓所と啓発録の碑がある

橋本左内の墓と像がある。橋本左内は、幕末の福井藩士。藩主松平春嶽の右腕として、將軍継嗣問題、外交問題について開国派として奔走。しかし、安政の大獄により捕らえられ、26才の若さで斬首された。

福井市左内町にある「左内公園」には、幕末の福井藩士、橋本左内とその両親の墓があります。また、市民の寄付により建立された橋本左内の像があるほか、左内が15歳のときに著した啓発録の碑が設置されています。(福井市観光協会)



④百坂 左内公園より徒歩2分

水道記念館の脇の百坂でゆやの清水跡を見てから横坂に入り、幕末の歌人橋曙覧の歌碑へ

百坂は、水道記念館の脇から足羽山に登る急勾配の階段で、百坂の登り口には、斎殿清水(ゆのやしゅうず)と言われるわき水が出ていた跡地があります。この清水は、福井震災から出なくなったと言われていて現在は水は湧いていません。

福井の幕末の歌人、橋曙覧の妻は、毎日この清水に水を汲みに行っていたといわれ、雨の日などは道がぬかるみ大変に苦労した、と曙覧の読んだ句に残っています。坂は途中で、横坂、最終的に愛宕坂に合流します。石段には福井特産の石である笏谷石が用いられています。



⑤橋曙覧記念文学館 百坂より徒歩2分 (入場料一般100円、70歳以上無料)

幕末の国学者・歌人、橋曙覧(たちばなのあけみ)が隠棲した黄金舎(こがねのや)の跡地に建設された記念館。橋曙覧は、明治時代に正岡子規が絶賛したことで、広く世に認められた幕末の歌人です。橋曙覧記念文学館は、曙覧の旧家「黄金舎(こがねや)」跡に建てられています。曙覧は21歳でこの愛宕(あたご)山(現、足羽山)の黄金舎に隠棲し、清貧の暮らしのなかから、生活・社会・自然を奔放に詠みつづけていました。文学館では、橋曙覧が住んでいた「藁屋」の一部を推定復原したコーナー、曙覧の書、作品、生涯・幕末の関連人物を紹介するコーナーなど、曙覧のさまざまな世界を知ることができます。

正岡子規に絶賛され、クリントン大統領のスピーチにも引用された幕末の歌人橋曙覧の資料館。曙覧の生涯や業績を紹介する展示の他、曙覧の住居であった「藁屋(わらや)」の一部復元や独学吟の全52首イメージボールによる展示、映像により曙覧を判り易く紹介しています。(福井市観光協会)



⑥由利公正宅跡 橋曙覧記念館より徒歩10分 (坂本龍馬歌碑)

五箇条の御誓文の草庵を作った由利公正ゆかりの地。公正宅の跡、坂本龍馬の歌碑、由利公正の銅像などがある。

横井小楠に師事し、福井藩財政を再建した福井藩士由利公正は、明治新政府で金融財政を担当し、「五箇条の御誓文」起草にも参画。現在の足羽川河川敷のところにあつたとされている由利公正(当時は三岡八郎)の居宅跡には石碑が建てられている。宅跡のあたりは、「毛矢侍」と呼ばれる下級武士が住んでいた地域で、由利公正は、この地から福井藩の重要な家臣として出世していく。

福井藩財政を再建し、新政府では「五箇条の御誓文」の原案「議事之体大意」を作成した由利公正(三岡八郎)が住んでいた地。ここで横井小楠に連れられた坂本龍馬と三人で会談したとされ、その際に龍馬が詠んだとされる「君がため捨つる命は惜しまねど心にかかる国の行く末」の歌碑があります(龍馬の生家近くから取り寄せた石材を使用)。(※実際の宅跡は現在の河川敷辺りにあり、明治33~44年の河川工事で失われています。)

(福井市観光協会)



■幸橋(さいわいばし)

足羽川堤防を抜け、「君の臍臓をたべたい」の小説表紙のモデルとされた場所。ファン必見の聖地。

江戸時代のこの場所には、兩岸に綱を渡した「繰り舟」が設けられていましたが、これは福井藩士専用で、一般の人は使えなかったため、交通が不便でした。文久2年(1862)に福井藩士、由利公正の発起により橋が架けられ、人々が大いに喜んだことから「幸橋」と命名されました。ふくい桜まつりは、この幸橋が架けられたことを記念して行われた「春まつり」が起源であるといわれています。

人気小説「君の臍臓をたべたい(住野よる)」の表紙のモデルにもなっています。(福井市観光協会)



⑦日下部太郎、グリフィス像 由利公正宅跡から徒歩3分(横井小楠寄宅跡)

日下部太郎は福井藩からのアメリカ留学第一号の生徒でした。

柴田神社からグリフィス記念館に向けて、福井市中心部を流れる「足羽川」の川沿いを進みます。幸橋北詰から桜の小径を進むと、日下部太郎と留学先の大学の先輩で指導・親交があったグリフィス像が建っています。

すぐ近くには、横井小楠寄留宅跡があります。(福井市観光協会)



⑧明道館(明新館)跡 横井小楠寄宅跡より徒歩12分

松平春嶽が建てた藩校

福井藩主松平春嶽が日本を背負って立てるような人間を育て上げる目的で安政2年(1855)に建てた藩の学校。安政4年(1857)1月に橋本左内が学監心得(今でいう校長)に任ぜられ、明道館の改革が始まった。橋本左内は福井城下4箇所の子供たちのための塾と武芸の稽古所をつくり、藩内の道場を全て明道館に併合。また法律学校を新設し、欧米の優れた学問を広く学ばせようと進めた。

ビルの片隅に小さな石碑が建っている。



⑨福井城址 明道館跡より徒歩6分

福井城の跡地、今は桜の名所に。

福井城は、徳川家康の次男・初代福井藩主・結城秀康が慶長11年(1606)に築城し、約270年間17代にわたり越前松平家の繁栄の舞台となった名城です。築城当時は高さ37m・四層五階の雄大な天守閣が建っていましたが、大火で焼失、幕末の時代にはすでに天守閣はなかったそうです。

現在では石垣と堀の一部だけが残るのみですが、春は桜の名所となっています。天守台跡の広場は小高く、桜の枝を手の届く距離で眺めることができる花見スポットです。天守台下には、「福井」の名の起こりとなったという「福の井」と呼ばれる井戸跡もあります。



⑩御座所 福井城址より徒歩2分

福井市役所の北側にある中央公園(現在地)の場所は、福井城西二ノ丸・三ノ丸があった所です。特に東西を堀に挟まれた西三ノ丸には、藩主の住居でもある御座所が設けられていました。建物は南北に細長く連なり、北側には池のある庭園も設けられていました。最初の御座所は本丸御殿に併設されていましたが、延宝3年(1675)、5代藩主昌親(まさちか)が、西三ノ丸に御座所を新築しました。その後、文政13年(1830)に本丸に移されましたが、幕末期の天保14年(1843)に、16代藩主慶永(春嶽)が再び西三ノ丸へ戻しています。

中央公園には、この時代の御座所の輪郭を芝生広場の中に石で表示しています。(中央公園、ビジターセンター内解説板)

⑪福井神社 御座所より徒歩1分

幕末の名藩主松平春嶽を祭神として昭和18年我が国最後の別格官幣社として造営されました。昭和20年の戦災で燃えてしまいましたが、昭和32年11月奉賛会の手により再建されました。なお、境内の摂社・恒道神社には、春嶽を支えた幕末の福井藩士、中根鞞負(雪江)・鈴木主税(純淵)・橋本左内(景岳)が祀られている。

福井神社は日本古来の木造の神明造りが鉄筋コンクリートで再構築されており、ドコモモ登録専門委員会は2022年「福井市中心部に現存する最重要の戦後モダン建築」と評価した。

●福井市立郷土歴史博物館

常設展示室ではテーマに沿って、福井市の歴史をわかりやすく展示・解説しています。また、松平家史料展示室や江戸時代の衣装が体験できる「へんしん越前屋」、福井城の門を復元した舎人門(とねりもん)などがあり、子供から大人まで楽しみながら歴史を学ぶことができます。(福井県観光連盟)

福井藩主であった松平家の資料を中心に、城下町の暮らしぶりや戦災、震災などの資料を常設展示しています。福井城本丸や九十九橋の復元模型やCGを使った展示なども見どころです。さらに、江戸時代の衣服や道具を体験できる「へんしん越前屋」では江戸時代の衣服や道具を体験することもでき、楽しみながら歴史を学ぶことができます。

館外北側にある展示「福井城舎人門遺構」は、建築前に見つかった堀や土塁の遺構とともに復元されています。



●養浩館庭園 福井市立郷土歴史博物館より徒歩1分

養浩館庭園は福井藩主松平家の別邸で、江戸時代には「御泉水屋敷(おせんすいやしき)」と称されていました。庭と密接な関連の基に建造された池の周囲の書院建築の数々と、広大清澄な園池を主体とした回遊式林泉庭園は、江戸中期を代表する名園のひとつです。昭和20年の福井大空襲で建物が焼失しましたが、昭和57年に国の名勝に指定されたことが契機となって、文政6年の「御泉水指図」により近年、整備が行われました。現在では、建造物・池だけでなく玉砂利・石組・樹木も四季折々に風趣が漂い、庭園の趣を楽しめます。

近年は、アメリカの庭園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」による「日本庭園ランキング」でも上位に選ばれる名勝に選ばれ、海外からも高い評価を得ています。(福井県観光連盟)



帰りのハピライン、福鉄の時刻表

ハピライン	福井	鯖江	武生	王子保	南条
	13:09	13:25	13:30	13:34	13:37
	14:09	14:24	14:29	14:33	14:37
	15:09	15:24	15:29	15:33	15:36
	16:05	16:20	16:25	16:29	16:33
福鉄 11～15時台	福井	福井城址大	西山公園	北府	たけふ新
	毎時27	毎時34	毎時11	毎時24	毎時26
	毎時57	毎時04	毎時41	毎時54	毎時56